

連合 2014平和広島集会

核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を！ ～全国から2千人を超える仲間が結集～



平和広島集会に参加された連合福島派遣団の皆さん

会議まで、連合の構成組織・地方連合会、全組織を上げて1000万署名と国内外の世論喚起に取り組んで行きたい。核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように、核実験の中止・核兵器廃絶に向けて今後も世界に向けて強く、広く、働きかけを続けて行きたい。」と訴えた。

続いて、平和の語り部・被爆体験



69年目を迎えた原爆ドーム

1945年8月6日、熱線と爆風、恐るべき放射線により一瞬にして14万人余りの尊い命を奪った原子爆弾が広島に投下され、今年で69年目を迎えた。

連合福島派遣団一行は、8月5日広島文化学園HGBホールに全国から2千人を超える仲間が結集した「連合2014平和広島集会」に参加し、職場や地域から核兵器廃絶運動を粘り強く取り組んで行くことを誓い合った。

集会では、主催者を代表して古賀伸明連合会長が「2015年4月にニューヨークで開催されるNPT（核兵器不拡散条約）再検討



平和の折鶴を献納する連合福島派遣団代表

証言者として広島県原爆被害者団体協議会理事長の「坪井直（すなお）」氏が、ご自身の被爆体験を話し、89歳になった今でも原子爆弾による様々なご自身の病気と闘いながら、原爆の恐ろしさを自らの体験として後世に訴え続けている姿に深く感銘した。

そして、連合福島派遣団一行9名は、広島記念資料館（原爆資料館）や原爆ドームを視察して、実際に爆心地を中心とした当時の惨状（悲惨さやむごさ）に心を痛めながら、帰路についた。